

# 伊勢神宮に参拝



石狩医師会  
鎌田内科クリニック

鎌 田 覺

令和元年10月22日、天皇陛下の「即位礼正殿の儀」が皇居内で執り行われ、新聞・テレビのトップニュースで大きく報道された。

この日は国民の祝日となり、私共は休みを取って念願の伊勢神宮に参拝していた。皆様ご存知の通り、この神宮は天皇のご先祖である天照大神が祀られており、2000年の歴史があり、日本人の心のふる里として年間1,000万人の参拝者が全国から集まり賑わっている。

今回私共の旅は新千歳空港からジェット機で中部国際空港に約1.5時間に到着、レンタカーを借りて姪の夫の運転で高速道を約2時間の旅であった。

60数年前には私の父も参拝しており、当時は列車の旅で、青函連絡船で青森に渡り、再び列車で伊勢までは2日がかりの旅であった。今は交通機関の発達により便利な世の中となり、父の時代と比べると隔世の感がある。

さて伊勢は海辺の街で、背後には穏やかな山並みが続き、車を降りるとふる里の田舎に帰った時のような懐かしい思いに満たされた。

パック旅行でガイドさんを手配しており、早速外宮からご案内していただく。ガイドさんの指示で左側通行で玉砂利を踏んで奥へ進む。この神宮は天照大神の食事を司る豊受大神が祀られているといわれ、私には男性的な雰囲気を感じられ、別宮（遙宮）参拝所の亀石を発見した時は須佐男尊の出雲がふと頭に浮かんだ。

内宮に移動して五十鈴川に架けられた宇治橋を渡り皇大神宮に入る。今度は右側通行で玉砂利を前に進む。千古の森に囲まれた静かな佇まいで、今も天照大神がご鎮座されており、優しい女性的な雰囲気を感じられた。20年に一度お宮を新しく建て替える式年遷宮が1300余年続けられている。

次に猿田彦神社を参拝する。天孫民族をこの伊勢の地にご案内した神である。この日の参拝者の多くは日本人で、外国人の姿はほとんど見られなかった。

さて数年前、私はわが家の家系図を作成したことがある。わが家のルーツは岐阜県高山市と白川郷の中間に位置する山村で白山の麓にある。戸籍の保存期間が150年のため、また菩提寺が火災に遭い過去帳が燃えてしまい、わが家の祖先は7代前の250年くらいしか遡れなかった。

この時、計算機を使って、私の祖先の数を計算してみたことがある。私共には父と母の2人が存在し

て、現在の私の命がある。両親には更に父母が2人ずつ存在している。計算機で $2 \times 2 = 4$ 、 $\times 2 = 8$ 、 $\times 2 = 16 \dots$ と20回ボタンを押すと100万人となる。ということは、私共の20世代前には親族が100万人いるという計算となる。あと10回押すと10億人の祖先がいることになり、30世代前というとな人が20歳で子供を産むとすると600年前となり、10億人の祖先の数となり、私共はその祖先と親戚関係になり、つながっていることとなる。昔々の古代の時代には天皇家と兄弟の関係にあったとしても不思議ではない。そして本家から分家ができ、分家が更に本家となり分家を作り…と、幾世紀にわたって現在につながっていると考えると、天皇家が総本家でわれわれ国民が分家となる。本家はいつも分家の幸せを祈り、分家は本家を敬って現在があると思ひ、伊勢を後にした。今回の旅は姪夫婦と私共夫婦で、私は7回目の年男、姪は6回目の年女であった。宿は「斉王の宮」という王朝文化をテーマにした高級ホテルで、ちょうど私共夫婦結婚50年の節目にあたり盛大にお祝いいただき感激した。

帰りには父母の眠る京都の東本願寺にお参りした。京都は外国人の観光客であふれていた。次に大津市の認知症の90歳の姉を見舞い、相次ぐ台風、大雨による水害の被災者の皆様のことを思い、暗い気持ちで帰路についた。

参考文献：日本のルーツ飛騨 山本健造原著 山本貴美子編  
裏古事記-ねじれねじれて二千年 山本貴美子著  
福来出版（一般社団法人飛騨福来心理学研究所）出版部



右端：筆者